はつとん weekly⑫

「どのように」学ぶか

2023 年度ももうすぐ終わりを迎える中、学校は次年度準備で大変忙しくしています。生徒たちもそれぞれ次のステージでの活躍に向けて展望を持っているころだと思います。

一年を振り返ると様々なことが思い起こされますが、今年度はコロナ禍の状況を形としては脱し、学校行事も通常行っていた状態でできるようになりました。新たな挑戦も加味しながら実施できたこともあり、コロナ禍の閉塞感をやっと感じなくなりました。しかし、年始の能登半島地震や日航機海保機の接触事故など、予測不能な事がどうしても起こってしまいます。

予測不能な時代に必要な力として、レジリエンスや問題解決能力やコミュニケーション能力などがよくあげられます。そもそもこういった力をつけるためにはどうすればいいのでしょう。

最近、本や YouTube などで、短い時間で効率的にこのような力を身につけるための方法が提示されています。しかし、人間力に関わるようなこれらの力を簡単に身につけることは非常に難しいことだと思います。ですので、企業などではそのような力の土台となる教養の大切さに目を向け出しているところも増えてきています。するとまた、ファスト教養のようなものが巷で言葉として出てきたりして、まるでいたちごっこのようなことになっています。

レジリエンスや問題解決能力やコミュニケーション能力のような力を持っている人は、マニュアル的に身につけたのではなく、物事を深く考え、視野を広く持ち、俯瞰的に物事をとらえることができる人なのだと思います。本当の教養を身につけた人です。そして、それは日々の学びの中で身につけていくものです。

大切なことは「何を」学ぶというだけでなく、「どのように」学ぶかを意識するべきなのだと思います。初芝富田林の教育目標である「本質を問い、本質を見極める力を養う」は、まさにこの「どのように」を実践するために、その方法として「問い」に目を向けたものです。

何を問うのか、どのような問いを持ち続けるのかが、この予測不能と言われる時代を突き進んで行くための力に通じているのだと思います。

年度の終わりにあたり、生徒たちには、こういったことを考えに入れながら、次の新しい年度を迎え、またさらに飛躍してほしいと思っています。

次年度も、はつとん weekly は続きます。

はつとんの日々の学びを、理念がにじみ出るような記事にしていきたいと思います。

次年度もどうぞよろしくお願いします。